

第25回日本音楽療法学会 東北支部学術大会 最終案内

ヒトが「音楽する」こと

日時

2025年6月29日（日） 10:20～15:55（9:45～受付）

開催方法

オンライン（Zoomライブ配信）

プログラム

受付

▷ 9:45～

開会式

▷ 10:20～10:30

講演 I

▷ 10:30～12:00

音楽神経科学の観点から考える音楽の「ちから」

藤井進也氏(慶應義塾大学 環境情報学部准教授)

昼休み

▷ 12:00～13:00

講演 II

▷ 13:00～14:30

藤井先生とともに学ぶ、脳科学から音楽療法へ ～対話形式講習～

講師：藤井進也氏

ファシリテーター：高山 仁氏(日本音楽療法学会東北支部支部長)

東北支部 学術企画

▷ 14:45～15:45

事例発表へのウォーミングアップ

企画進行：佐藤久美（東北支部学術委員長）

閉会式

▷ 15:45～15:55

東北支部総会

▷ 16:10～17:00

大会のお誘い

春の訪れとともに、新たな学びの機会をお届けできることを嬉しく思います。日頃より音楽療法の発展にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

音楽療法は、人と人が関わりあうことの中で育まれると感じています。それは私たちの支部の在り方にも通じるのではないのでしょうか。お互いを尊重し合い、学びを深めあうことで、より豊かな実践へとつなげていく。そのような場を、皆さまとともに築けていけたらと願っています。今回の支部大会では、専門的な知識や技術の向上はもちろんのこと、会員同士が意見を交わし合うことも大切にしたいと考えて、質疑応答の場を設けました。

質疑応答の実施方法として、6月29日大会直前に講師の藤井先生の講義資料をお送りいたします。その資料をご覧ください皆さまから「事前質問」をお寄せいただきます。当日はその質問を中心に藤井先生と応答を行います。さまざまな視点や経験が集まることで、新たな気づきが生まれるはずです。ぜひ、日頃の実践の中で感じていることを分かち合いながら、ともに学びを深めていきましょう。

その後、学術担当企画、総会となっております。オンライン開催ではありますが皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。多くの方々のご参加をお待ちしております。

第25回日本音楽療法学会東北支部学術大会 実行委員長 馬場久美子

概 要

講演 (I)

I 音楽神経科学の観点から考える音楽の「ちから」 講師：藤井進也氏

音楽神経科学 (Neurosciences and Music: Neuromusic の和訳) は、ヒトという生物の脳・神経系で、音楽がどのように情報として処理され、どのようにして豊かでユニークなこころの状態を生み出すのか、その起源や原理を探究する学問である (藤井、2023)。本講演では、音楽とは人類にとって一体何か、音楽は人類に何をもたらすのか、その「ちから」について音楽神経科学の観点から考える。本講演では、第一に、ヒトのはじまりと音楽のはじまりについて考える。音楽は何年前からこの世に存在するか、なぜ存在するか、音楽とヒトの起源について想いを馳せる。第二に、「話す (Speaking)」と「歌う (Singing)」の違いについて考える。ある言葉を「話す」とき、「歌う」とき、音波にどのような物理的変容が生じるのかを学び、「話す」と「歌う」の情報伝達の違いについて考える。第三に、失語症 (Aphasia) の不思議について考える。「話す」と「歌う」の脳のはたらきの共通性と相違性について学び、メロディック・イントネーション・セラピー (Melodic Intonation Therapy: MIT) の脳内メカニズムと可能性について考える。第四に、リズムと身体の関係性について考える。なぜ、ヒトは音楽のリズムに合わせて身体を動かすのか、他の動物との比較を通して、ヒトの脳内リズム処理の不思議について考える。さらに、ヒトはいつから音楽の拍 (Beat) に合わせて、身体の動きを同期することができるのか、音楽リズム同期の発達の起源とその生物学的機能について考える。第五に、音楽リズムとパーキンソン病の関係について考える。パーキンソン病発症の脳内機序と音楽リズム処理の脳内機序の双方について学び、音楽リズムがなぜパーキンソン病の運動機能を改善する可能性があるのかを考える。第六に、音楽神経科学のこれからについて考える。世界の音楽産業と音楽科学の現状、音楽科学分野の世界動向について学び、音楽と科学が融和する未来の可能性について考える。

参考文献：藤井進也. 音楽神経科学の研究動向: 音楽家の脳から音楽の予測符号化まで. 音楽知覚認知研究 28(2)pp. 101-122. 2023.

『プロフィール』

慶應義塾大学環境情報学部准教授. 音楽科学研究センター長. 音楽神経科学研究室主宰. 京都大学総合人間学部卒. 京都大学大学院博士課程修了. 博士(人間・環境学). 日本学術振興会特別研究員 DC1 (京都大学). PD (東京大学, ハーバード大学). 海外特別研究員 (トロント大学). 東京大学大学院特任助教. 慶應義塾大学専任講師を経て現職. ドラマーとしてアンミュージックスクール京都校を特待生認定修了. 専門はドラム、音楽神経科学

講演 (II)

II 藤井先生とともに学ぶ、脳科学から音楽療法へ ～対話形式講習～

講 師：藤井進也氏(慶應義塾大学 環境情報学部准教授)

ファシリテーター：高山仁氏(日本音楽療法学会東北支部支部長)

2025年度の支部学術大会は、藤井先生のご講演に続き、2コマ目は「藤井先生とともに学ぶ、脳科学から音楽療法へ ～対話形式講習～」を企画しました。この地球上の生物の中で、最も飛躍的に進化した動物は私たち人類でしょう。その私たちは、言葉を獲得し思考する能力を得たが故に、ここまで文化・文明を発展させ、人類の社会を繁栄させてきました。

一方、言葉とは別に、「音楽」も表現メディアとして発展し続けています。そして、人類の歴史の中で音楽は一度も途絶えたことはなく、むしろ災害や戦争など、人間にとって厳しい局面でこそ「音楽」をしてきました。ここに「人間と音楽」の深い結びつきがあり、音楽療法の実践研究においても外すことのできない大きなテーマでしょう。

本研修は、そのことを「脳科学」という領域から学ぼうとする企画です。1コマ目での藤井先生のご講演から学び、皆様の中では知識として一端は止まることでしょう。しかし、実際問題として、なかなか使えない知識となることも大いに考えられます。そこで、これらの知見を「どう」実践に具体的に活かすことができるか、そのことにチャレンジしてみたいと思っています。是非、この機会に脳科学を少しでも腑に落ちる状態にまで落とし込んでみましょう。皆様からの具体的な質問を期待しております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

記：高山仁

東北支部 学術企画

事例発表へのウォーミングアップ

企画進行：佐藤久美（東北支部学術委員長）

近年、全国学術大会や支部学術大会において、研究発表への応募数が減少傾向にあります。日々のセッションでお忙しいことが一番の理由だと思いますが、「研究」や「発表」という用語が難しい印象を与え、自分の取り組みを共有することから遠ざかっている方もいるのではないかと考えます。そこで、第25回東北支部学術大会実行委員会及び東北支部学術委員会で検討し、事例発表に向け、普段のセッションに関連付けてできることを提案させていただきます。具体的には、「セッションの記録から発表抄録につなげる」「セッション中の気づきを研究テーマに発展させる」などです。経験の浅い音楽療法士はもちろんのこと、経験豊富な音楽療法士も初心に返り、2周目、3周目のスタートのつもりで、ご参加いただけますと幸いです。

東北支部ホームページ

<https://jmtathhp.wixsite.com/jmta-tohoku>

上記ホームページ、随時大会情報を掲載して参ります。



大会参加申込みについて

受付はインターネットのみにになります

申し込み期間：4月28日(月)10:00～6月18日(水)24:00

日本音楽療法学会東北支部ホームページ(<https://jmtathp.wixsite.com/jmta-tohoku>)から第25回東北支部大会バナーにアクセスしお申し込みください。

ホームページの支部大会バナー



申込フォームに入力、送信



確認メール（自動返信）

※参加費振込口座をお知らせします



参加費の振込 ※1週間以内に振込



完了通知メール受信

QRコードからも申し込みできます



<https://forms.gle/zvLmMwecp4pVifCr9>

お問合せ先：第25回東北支部大会事務局 totaikai25to@tiara.ocn.ne.jp

※申込後2～3日経過しても確認メールが届かない場合は、お手数ですが大会事務局までご連絡ください。

携帯メールの場合、受信ブロックされる場合があります。PCメールでの申込みをお願いいたします。

※定員：70名 定員に達した時点で受付終了となります。当日の受付はありません。

参加費		
学会正会員	学生会員・学生	一般（非会員）
5,000円	4,000円	6,000円
参加費の入金先は、お申込み後、ご連絡いたします		

※申込から1週間以内に振込のない場合は、申込が取り消しになります。

※振込後のキャンセルおよび返金はできませんのでご了承ください。

▶ 参加証明書：後日、郵送します。

	大会（参加証明書）
認定ポイント	10
更新ポイント	3

※2025年度から資格更新規則の改定により更新ポイント数に変更されました。